発言No.　11

受付No.　7
令和７年２月１３日
11時　33分　受付

# 一　般　質　問　発　言　通　告　書

議席番号　２２　番　　氏名　牛尾昭

**答弁を求めるもの**
（○をつける）

市長　教育長　監査委員　選挙管理委員会委員
農業委員会会長　固定資産評価審査委員会委員長　公平委員会委員長

**発言項目及び要旨**

**１、市長の４期目に臨む姿勢について**

**（１）出馬について**

①　久保田市長はちょうど４年前の６月定例会議において、進退を問う私の質問に対して、力強く出馬表明された。今回の施政方針や予算規模を読み込むと、過去３回とは比較にならない、並々ならぬ続投への意欲を感じる。市民の皆さま方へ、声高らかに出馬表明されるよう期待するが、ご所見を伺う。

**（２）財政状況の認識について**

①　何をするにも、一番大事なのは、財政力である。平成１９年に実質公債費率は、２５．１％を超え、全国ワースト５位となり、第二の夕張市になるのではと騒がれたが、市・職員と議会が一体となり、血の滲むような行財政改革をやり遂げた。久保田市長就任直前の、実質公債費比率は１４．５％だったが、現在は１０．５％。将来負担比率は１１８．８％であったのが６．３％の一桁になった。基金残高は、平成２５年末が１１５億８千万円であったのに対して、今年度末見込が１５９億２千万円で、約４３億円の増である。この間、コロナ対策や水産業・商工業振興、全国市長会役員など様々な事業をやり遂げられての基金増である。この間を振り返られての、浜田市のトップとしての認識を問う。

**２、市長の商店街振興への意気込みについて**

①　昨年末、国政報告会で、紺屋町商店街理事長から、「街路灯の新規設置や撤去費用が、体力がなくできない。何とかしてほしい」との質問が高見衆議院議員に対して行われた。慌てて、私は、その問題は市の方でと言い、止めに入った。昨今、街路灯老朽化で事故が起きており、急遽、問題箇所を点検してもらったが、大事なかった。ただ、商店街は、加盟店の減少や高齢化で体力を落としている。一方で、店舗兼住宅の多い紺屋町は、それなりの固定資産税を今日まで負担している。この様な環境の中で、紺屋町商店街の景観保全や通行人の安全・安心確保のために、現状で対応できるような対策を問う。

**３、市長の水産業振興への意気込みについて**

JF しまねの初市、先般の全員協議会においても報告があったが、（株）三陽の誘致が決まり、新聞報道をみた多くの市民からお祝いの言葉を頂いた。市長の平素からのトップセールスに敬意を表す次第である。水産浜田の再生に向けた、水産業振興について以下質問する。

① マルハニチロとの養殖の共同研究事業の成果について問う。

② 冬場に時化が続き、お魚市場などに鮮魚のない時期が多い。宇都宮市水道局が直営で始めたイチゴサーモン養殖が脚光を浴びている。小規模養殖の検討を始めてはどうかと思うが市長の考えを問う。

**４、市長の農業振興への意気込みについて**

① 先ごろ放映された「民教協スペシャル」の番組によると、コメ農家一経営体当たりの年間収入から経費を差し引くと、残る所得は１万円。ここ２年間は、労働時間で割ると、時給１０円になるそうである。これは、２０２２年度の収入は補助金を入れて３７８万円。肥料代や光熱代などの経費を除けば、手元に残る所得は１万円、これを時間で割ると時間給１０円である。稲作農家は高齢化が顕著で、２０年後に今の６０代が引退すれば、米作農家は１割台まで激減するそうである。現在、同僚議員と農家の聞き取り調査をしているが、市の状況も相当深刻である。もし米作農家が激減すれば、５万市民の主食米が危うくなり、市民の生命・財産を守るべき市役所の役目が果たせなくなる。振り返って施政方針には、この様な現状に対する危機感が希薄である。改めて市長の農業振興への意気込みを問う。